

- ◆PMS資格試験 受験生募集中
- ◆PMCC理事会ならびに総会を開催
- ◆新しいP2M資格制度 PMC資格 ご案内
- ◆P2Mセミナー ご案内
- ◆PMS講習会 全国で実施中
- ◆地区P2Mクラブ 活動報告
- ◆フランス リール大学院でP2M講座
- ◆PMシンポジウム2005 ご案内



特定非営利活動法人
プロジェクトマネジメント資格認定センター

P2Mのさらなる進化をめざして



PMCC 理事
芝尾芳昭
研修部会 部会長

日本発のプロジェクトマネジメント実践知識体系としてスタートしたP2Mも、本年度で4年目を迎えました。資格認定の取り組みとしては、PMS資格者が累計で1,691名、昨年より実施されましたPMR資格者が24名と成果を上げることができました。また、

本年よりPMSの下位資格として、PMC資格がスタートいたします。資格を取得された方には、それぞれの企業・団体の中でP2Mから学んだことを、日常業務に活かしてそれぞれの分野で新しい改革・価値創造にチャレンジしていただきたいと念じております。

▽PMS（プロジェクトマネジメント・スペシャリスト）

私が担当しておりますPMS講習会では、さまざまな業種の方々が受講されています。また、講師陣もさまざまな分野の実務者が担当しております。PMS資格試験のための講習ではありますが、幅広いP2Mの全体を理解できる講習としても高い評価を頂いております。今後は、講習テキスト・講師のさらなるレベルアップを図り、受講者により役立つ講習会にしていきたいと考えております。

▽共にP2Mのさらなる進化を

P2Mは日本発信型のPMスタンダードとして、グローバルデファクト化をめざしています。そのためには、さらなる進化が求められます。P2Mを進化させる原動力は、PMCC会員企業並びにP2M資格取得者の皆様方ではないかと思ひます。皆様方のさまざまなビジネス分野での実践経験・課題解決手法などをフィードバックしていただき、より実践に即した知識体系に進化させていきたいと考えております。P2Mを進化・発展させていくのは、現場力です。ビジネス現場でご苦労されている皆様方と一緒にP2Mを進化させていきたいと念じております。

PMS資格試験 受験生募集中

来る8月28日（日）、平成17年度第1回（第7回）PMS資格試験が実施されます。今回は東京・大阪・札幌・名古屋・沖縄の全国5会場で実施されます。

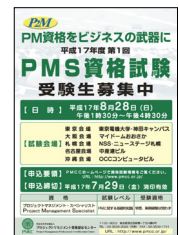
◆試験日：8月28日（日）

◆申込締切：7月29日（金）当日消印有効

◆試験会場

- ＜東京会場＞ 東京電機大学・神田キャンパス
- ＜大阪会場＞ マイドームおおさか
- ＜札幌会場＞ NSS・ニューステージ札幌
- ＜名古屋会場＞ 中産連ビル
- ＜沖縄会場＞ OCCコンピュータビル

既に募集ポスターをお送りさせていただいておりますが、会員企業におかれましては、社内に掲示し積極的な受験応募のご推奨をお願いいたします。



PMCC理事会ならびに総会を開催

6月22日（水）、PMCCの第4回総会と第7回理事会が開催されました。「定款」に基づき、吉川弘之会長が両議長に就任し、下記議案について審議され各議案とも全会一致で可決されました。

- (1) 役員の選任
- (2) 平成16年度事業報告・決算報告
- (3) 平成17年度事業計画・

予算 (4) 定款一部変更について 他



これにより、PMCCとJPMFの統合による「日本プロジェクトマネジメント協会」（略称：PMAJ）設立が承認され、設立に向けた準備がスタートいたします。今後、東京都の認証の手続きを経て本年11月初め頃、PMAJとして新協会がスタートすることとなります。

Topics

新しいP2M資格制度 PMC資格 ご案内

P2Mの新しい資格制度PMC（プロジェクトマネジメン
ト・コーディネータ）概要が決まりましたのでご案内い
たします。

PMCは、プロジェクト遂行実務者およびプロジェクト
リーダー候補者を対象とした資格で、PMSの下位資格と
して位置づけられます。その狙いは、プロジェクト実務
者としての社会的認知を獲得することにあります。

■PMCの人材像

1	目的・目標が明確なプロジェクトを担当
2	P2Mの基礎的知識を有し、実践で使いこなす
3	プロジェクトの使命、プロジェクトマネジャーの意図を理解し、プロジェクトマネジャーをサポートする
4	プロジェクトマネジャー補佐として、メンバー間の意思疎通を図り、成果物の実現に貢献する

■知識範囲

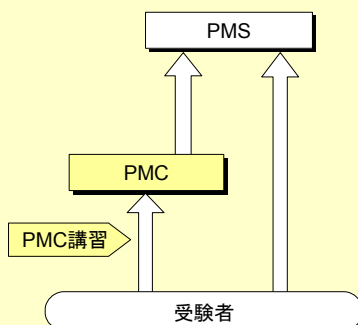
幅広いP2Mの知識体系のうち、プロジェクト遂行実務
者に求められる

1. P2M概論
 - ① エントリー概論
 - ② プロジェクトマネジメント概論
 - ③ プログラムマネジメント概論
(プログラム統合マネジメント含まず)
2. 個別マネジメント
 - ① プロジェクト組織マネジメント
 - ② プロジェクト目標マネジメント
 - ③ プロジェクト資源マネジメント
 - ④ リスクマネジメント
 - ⑤ 関係性マネジメント
 - ⑥ コミュニケーションマネジメント

の知識習得をしていただき、プロジェクト実務に活か
していただきます。

■受験方法と仕組み

PMC資格試験受験
者には、基礎知識習得
のため PMCC認定教
育機関またはPMCC
による24時間以上の
講習受講が義務付け
られます。



講習につきましては、教育プロバイダーを公募いたし
ます。内容につきましてはPMCCホームページでご確認
の上、直接PMCCにお問い合わせください。

P2Mセミナー ご案内

8月4日(木)、東京で「P2Mセミナー」を開催いたしま
す。会員以外の方にご案内をいただき積極的な参加をお
願いいたします。

日 時：平成17年8月4日（木） 13：30～

会場：明治大学 リバティタワー 6階 1063教室

プログラム（予定）

- ・ 特別講演
「P2Mの価値、P2Mをどう活用するか」
シドニー工科大学客員教授
日本工業大学教授 小原重信氏
- ・ 記念講演
「日本経済・企業の再生とP2Mアプローチの妥当性」
早稲田大学 国際教養学部 教授 木下俊彦氏
- ・ P2M実践事例
「ミドルマネジメントで決まる21世紀型人材づくり」
パナソニックラーニングシステムズ(株)
代表取締役 北村保成氏

都合により、当初のご案内から 講師および演題を一部
変更いたしました。申込みは、PMCCホームページをご
覧下さい。

PMS講習会 全国で実施中

8月28日（日）に実施される平成17年度第1回PMS資格
試験に向け、東京・名古屋・大阪会場で、PMS講習会が
実施されています。第6回PMS資格試験では、71.7%とい
う高い合格率を出した本講習会には多数の受講生が参加
しています。



大阪会場



名古屋会場

地区P2Mクラブ 活動報告

関西地区 4月20日(水)、第8回P2Mクラブ関西分代会が開催され、30名が参加しました。今回のテーマはツール編とし、伊藤一彦氏(営業創造㈱ 社長)による「BSCをベースとした経営戦略システム」についての講演をいただきました。

九州地区 5月28日(土)、第3回P2Mクラブ九州例会が福岡商工会議所で開催されました。例会ではP2Mクラブ会員による事例発表や今後の活動方針など活発な議論が展開されました。

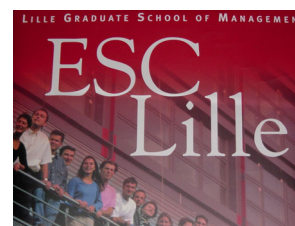


中国地区 6月24日(金)、P2Mクラブ中国地区6月例会が開催され18名が出席しました。例会では、「PMツールの活用事例」の講演や、参加者による座談会を行い、P2Mの最新動向についての意見交換が行われました。

中部地区 7月9日(土)、P2Mクラブ中部地域例会が開催され10名が出席しました。例会では平岡講師による「P2Mによる中小企業経営革新事例」の講演や「P2Mソフトツールの紹介」「P2M中部研究会状況報告」などがあり、積極的な意見交換が行われました。



第3回目となるフランスリール大学院MBAコースでの「P2M特別講座」が、7月18日より4日間開催されます。小原教授を中心とした多彩な講師陣で、PMスタンダードに向けて大きな成果が期待されます。



PMシンポジウム2005 ご案内

9月1日(木)・2日(金)、タワーホール船堀(江戸川区総合区民ホール)で国内最大のPM大会「PMシンポジウム2005」が開催されます。シンポジウムでは基調講演の他、業界別トラックに分かれての講演もあります。その中に「P2Mトラック」もありますので、積極的にご参加下さい。詳細は、JPMFホームページをご覧ください。

<http://www.ena.or.jp/JPMF/sympo/2005/>

PMCC事務所 移転しました

5月21日(土)、PMCCの事務所を移転しました。新事務所は、〒105-0003 東京都港区西新橋1-4-6。なお、電話番号・FAX番号の変更はありません。お近くにお寄りの際は、お立ち寄り下さい。

フランス リール大学院でP2M講座

会員企業紹介シリーズ⑫

システム・レジデンス株式会社 様 社員・会社の価値創造を目指して

当社は2003年、PMCCの企業会員に登録しました。

当社は社員数約40名ほどであり、名だたる企業がPMCCの企業会員である中であって、背伸びをしてまで会員になったのにはそれなりの理由があります。

当社は約20年ほどソフトウェアのシステム開発を続けてきました。その

間、コンピュータの技術革新はめざましい成長を遂げましたが、そこで働く個人の姿は今も昔もかわることなく、休日出勤や徹夜残業を含む状況下において業界が支えられているのも事実です。

何か打開策はないのか、自分たちが経験してきた仕組みや考え方にとらわれることなく、これからの社員と会社の財産となるような価値の創造とはなんなのか。P2Mへの当社の取り組みは、ここからスタートしました。

その思いは今年2月の第6回PMS資格試験の結果として、2度目の挑戦で1名の合格者を出しました。

合格者本人も試験直前の数ヶ月残業続きの状態でしたので、皆の喜びも大変なものでした。

次回の第7回PMS資格試験には、再挑戦者を含め5名が受験する予定となっており、今後の新たな展開を生む段階へ進めていくつもりでいます。

(経営企画部 中川様)

PMCC広場

～PMR 受験記～

私は昨年三月に、30年間勤務しました前の会社を早期退職し、第二の人生を設計する日々でした。そのような折にP2Mの存在を知り、セミナーに参加しました。そしてプログラム及びプロファイリングというコンセプトに共感を覚え、PMS資格を取得する決心をしました。セミナー会場でP2M標準ガイドブックを購入し独学に入り、幸いにもPMSに合格できました。その勢い駆ってPMR試験に挑戦した次第です。

PMR試験は一次試験（筆記試験）と二次試験（コース試験）に分かれています。特にコース試験は、約三ヶ月に亘る10回のモジュールをこなすロングランの実践コースで、小論文とディベート形式及び面接で行うものでした。そのディベートは、色々な業種の受験者からなるクロス・ファンクショナル（カンパニー）・チームといった擬似プロジェクトチームを組み、P2Mのフレームワークの中で与えられたテーマを議論し、然るべき結論を導き、それを発表するというワークショップ形式で構成されています。夫々のバックグラウンドも文化も言葉も異なるメンバー間で議論を進めることには、大変な困難が伴いますが、そこにP2Mという共通フレームワークを咬ませることで、辛うじて議論を進めることが可能になります。P2Mのフレームワークがビジネス共通語として機能することを実感できた瞬間でした。この体験がPMR受験の最大の成果であり、貴重な経験であったと思います。

PMSは知識ベースでありPMRは実践ベースであると表現されますが、この間には大きなギャップとハードルが存在します。今後、知識ベースを持つPMSを増やしていくと共に、その中から如何にして実践ベースがあるPMRを育成していくかが、P2Mの普及・拡大に向けて最大の課題であると認識を新たにしました。そしてこのキャリアパスを開発定着させるためには、PMR育成のためのトレーニングやコンサルティング等の新たなサービスが期待されていると強く感じました。今般、私は、この目的のためにプロジェクトマネジメントのコンサルティングサービスをコアにした、有限会社シンクリエイト(<http://www.syncreate.jp>)を設立致しました。

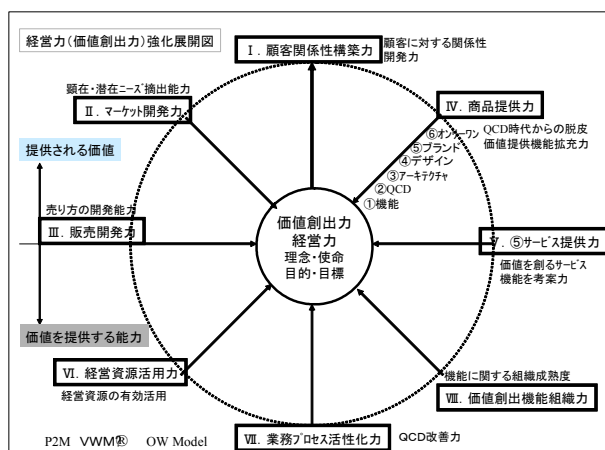
(次号に続く)

有限会社シンクリエイト 岩下 幸功 様

P2Mの活用とその事例 ⑥

IV. 商品提供力における競争力

経営力強化展開図は8つの軸でできています。一番重要なのが顧客関係性構築力ですが、日本人好みとしてモノづくりである商品提供力における競争力から話を進めます。



提供する商品は ①機能 ②品質・コスト・納期(QCD)、③設計思想(アーキテクチャ) ④デザイン ⑤ブランド ⑥オンリーワン商品の順番で商品価値が高く評価されます。言葉を代えるとこの順番で競争力があるといえます。

①の機能は商品としての最低必要条件となります。私たちは電気洗濯機を買うのは洗濯機能を購入するわけです。その最低の機能に対し、使いやすさ、性能のよさを機能に付加していきます。これが②の品質であり性能となります。しかし機能を多くするとコスト高、使いにくさを感じるようになります。コストと品質はトレードオフの関係にあります。商品を①と②だけで勝負することになるとコスト競争が激化し、収益性が低下し、企業として収益をうることができません。そこで企業は③設計思想 ④デザイン ⑤ブランド化等で差別化を図ります。⑥オンリーワンの商品をつくりますと、競争力は100%となります。しかし、②コストや納期を「VII.業務プロセス」の改善で実施すると他社が容易にまねすることができず、比較的長期間価格競争力で優位に立てます。このように競争力は8つの軸を種々に組み合わせて強化されることを覚えてください。

(芝安曇)